

博物館だより

No.209



令和6年4月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー
2024年4月

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4

休館日 ※情報はR6.3.15現在

◆講座・教室・催し物ガイド 4月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】
4月6日(土) 9時30分～
 - 【古文書講座】
4月13日(土) 10時～
 - 【古典かな講座】
4月20日(土) 9時30分～
 - 【みやこ学講座】
4月27日(土) 10時～
- ※日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途通知します。

博物館で「楽習」始めませんか？

博物館は郷土資料と学芸員らのサポートによる知と学びの拠点です。以下の会や講座を利用して楽しく学びませんか？詳しくは博物館へお問合せ下さい！

★博物館友の会

バスハイク・歴史たんけんウォーク等の学びの旅やイベントに参加できます。

★文化遺産ボランティア(豊み隊)養成講座

町の宝を二つのアクション①ガイド(案内)②ガード(管理)③ワーク(調査)でサポートするスタッフを募集・養成する講座です。

★博物館歴史講座

館や町内外の文化遺産を題材に、町の歴史と文化を学びます。4教室ありますが、掛け持ちやお試しも可能です(詳細下記)。



ふるさとの歴史を学ぼう！文化に触れよう！ 令和6年度 博物館歴史講座 受講生募集！

博物館では新年度からの歴史講座の受講生を募集します。

歴史講座には「漢詩紀行講座」「古典かな講座」「古文書講座」「みやこ学講座」の各コースがあります。

受講を希望される方はお気軽に博物館までお問合せください(継続して受講を希望される方の申込みは不要です)。

なお、各講座では毎回、資料代として200円が必要ですのでご了承ください。

講座内容のご紹介

【漢詩紀行講座】

●講師 宮原 加代子先生
●内容 漢学の郷みやこの詩人・村上仙山の漢詩を主に鑑賞します。あわせて漢詩の基礎や唐詩なども学びますので、初心者も参加可能です。
辞書・筆記用具をご持参下さい。

●実施日 毎月第1土曜日
午前9時30分～

【古典かな講座】

●講師 宮原 加代子先生
●内容 日本の古典文学の名言や名歌の鑑賞と手習いをします。初めての方にも参加しやすく進めます。
筆記用具・用紙などをご持参下さい。

●実施日 毎月第3土曜日
午前9時30分～

【古文書講座】

●講師 川本 英紀先生
●内容 江戸時代の人が「くずし字」で書いた手紙や日記などを解読します。特にみやこ町に関わる古文書を歴史的な背景についての解説を交えながら読み進めます。

●実施日 毎月第2土曜日
午前10時～

【みやこ学講座】

●講師 当館学芸員
●内容 「みやこ町と周辺地域の自然・文化遺産」をテーマに、ゆかりの話題を交え関連学習を進めます。
郷土の歴史についての講義はもちろん、実際に現地(遺跡やゆかりの地など)を歩き・見て・触れる体験型学習も行います。

●実施日 毎月第4土曜日
午前10時～

*見学会等は開催の都度連絡します。



▲参考:みやこ学講座における現地学習の様子
(写真はテーマに因む史跡・諏訪神社[犀川久富]見学の様子)

3月の業務日誌から

3月3日(日)、春の全国火災予防運動に鑑み永沼家住宅で防火設備点検が行われました。1月の文化財防火点検式が積雪で中止になったことによる取組で、地元や近接地域の消防団員が一堂に会して文化財の防火体制を確認しました。

3月5日(火)、九州国立博物館で曼陀羅寺(勝山久保)所蔵の仏画「当麻曼荼羅図」の竣工検査が行われました。2年がかりの修理を終え鮮やかな輝きを取り戻した仏画は、年明けを目安にお披露目が計画されているとのこと。



▲館職員や文化財保護委員も立会って竣工状況を確認しました



▲備え付けの防火設備を試験操作し有事の対応も確認しました

みやこの歴史発見伝 166

清水隆次

日本警察の逮捕術発展に努めた武道家

警視庁創設150周年

明治7年（1874）1月15日に首都東京の警備を目的として、現在の「警視庁」の前身となる「東京警視庁」が創設され、本年で150年を迎えます。現在の「警視総監」にあたる初代の「大警視」を務めたのが薩摩藩出身の川路利良です。彼は、フランスの警察制度を参考に日本の警察制度の基礎を築いた人物で「日本警察の父」と称されています。

今回は、近代警察制度の確立に際し、警察官の職務の根幹である「逮捕術」考案やその発展に尽くしたみやこ町犀川出身の武道家「清水隆次」についてご紹介します。

宮本武蔵が敗れた？

江戸時代初期の剣豪「宮本武蔵」は数々の有名な剣術家と対戦し、連戦連勝を重ねました。野球で「投手と野手を兼任する選手」を示す言葉で有名になった「二刀流」は、彼が得意とした両手に刀を持って攻撃や防備を行う剣術名です。文字通り「無敵」の宮本武蔵でしたが、この武蔵を倒したと伝えられる人物が夢想権之助です。彼は長さ4尺2寸1分（約128

cm）の杖を槍、薙刀、太刀として自由自在に操る武術「杖道」を完成させ杖を手に武蔵と対戦します。その結果、武蔵が振り下ろした刀の峰が権之助の背中を打つと同時に権之助の杖が武蔵の「みぞおち」を突き、倒れた武蔵は「負け」と叫んだと伝えられます。

無敵の武蔵を倒した権之助の名は広く知られることになり、その後、筑前の黒田藩に迎えられ、彼の杖道は門外不出の「神道夢想流杖道」として藩士たちに伝承されることとなります。

清水隆次と杖道

清水隆次は、明治29年（1896）12月31日に現在のみやこ町犀川本庄に生まれ、大正2年（1913）に「神道夢想流杖道」の師範白石範次郎の道場に入門します。この道場で日々の鍛錬や杖道の研究に励み、その腕前は急速に上達します。大正9年（1920）には神道夢想流杖道免許皆伝を授与され、権之助から数えて25代目の師範に就任し、昭和5年（1930）に杖道普及のため上京します。

警視庁から求められた「杖」

この頃、発足間もない警視庁では「逮捕術」確立に向け、様々な武道がその候補に挙がります。特に刀などの武器を手にした相手に対して有効な武術として神道夢想

流杖道が注目されます。その後、警視総監等、警視庁幹部の要望を受け、昭和2年（1927）に警視庁が開催した武術大会の舞台で、師範となった清水隆次が神道夢想流杖道の演武を披露しました。

昭和7年（1932）に発生した「5・15事件」で犬養毅首相が暗殺され、これ以降もテロ事件が続発したため、昭和8年（1933）10月1日に、現在の「警視庁機動隊」にあたる「特別警備隊」を創設します。警視庁はこの装備品として「杖」を正式採用しますが、これが現在まで国内の警察や機動隊で使用されている「警杖」です。この教官として正式に

制限されている日本の警察官にとって、相手を殺傷することなく捕縛可能な技であり、また自らの命を守る術として、現在まで大切に引き継がれ、国内各地の警察官に伝承されています。

「柔道の父」から認められた才能

柔道の創始者として「柔道の父」と呼ばれ、また日本のスポーツ全般の普及・発展や日本のオリピック初参加に尽力したことから「日本の体育の父」とも称されているのが、嘉納治五郎です。みやこ出身の小宮豊隆が主人公のモデルとなった夏目漱石の小説『三四郎』の中でも柔道の指導者として描かれ、また同じ文豪の森鷗外とは、東京大学の同期卒業生として知られています。嘉納治五郎は様々な武術の研究に取り組んでいますが、警視庁の武道講師を務めていた清水隆次の「杖道」をみて、自らの道場でも学ばせたいという嘉納治五郎の要請を受け、杖術を指導することになります。嘉納治五郎と清水隆次は「柔道」「杖道」という互いが育んだ武道

について尊重し、その発展に努めました。後年、清水隆次は、「武道に対する心構えや姿勢は全て嘉納治五郎先生に教わったものである。」と述べています。

現在まで受け継がれる逮捕術

昭和39年（1964）嘉納治五郎が尽力し、その開催が実現した東京オリンピックのデモンストラクションで、清水隆次は杖道の演武を披露しました。彼はその後杖道指導のためアメリカ全土を巡回し、また武道使節としてマレーシアに派遣されるなど、昭和53年（1978）6月22日に81歳の生涯を閉じるまで国内外を問わず杖道の普及に努めています。また現在、国土地理院が定めた警察署や交番の地図記号ではいずれも「×」印が使用されていますが、これは「交差した警棒」を表現したものであり、このような記号にも彼の功績を伺うことができます。このように「無敵の剣豪、宮本武蔵」を倒したと伝えられる最強の武術（杖道）をもとに清水隆次が考案・発展させた「逮捕術」は、現在全国各地の警察官に受け継がれ、犯罪の抑止となっています。

みやこ町出身の人物が国民の安全な生活を守る一翼を担い、その指導や発展に努めたことを改めて誇りに感じます。



清水隆次
杉崎 寛「杖で天下を取った男」より